

「復興の論点」 (都市計画学会)

1. 都市計画学会の取り組みの紹介
2. 能登半島地震とは
3. 復興とは
4. 今後の取り組みと課題
(2月24日復興討論会の暫定まとめ)

加藤孝明

都市計画学会・防災特別委員会・委員長
能登半島地震タスクフォース

東京大学生産技術研究所・教授／東京大学社会科学研究所・特任教授
(まちづくり, 都市計画, 地域安全システム学, 防災)

都市計画学会の取り組み

防災特別委員会 (2021.6設置)

防災学術連携体担当

委員長
幹事長

加藤孝明(東京大学教授／特任教授)
市古太郎(東京都立大学教授)

第1部会: 自然災害

部会長

牧紀男 (京都大学教授)

第2部会: 気候変動への対応

部会長

加藤孝明(東京大学教授/特任教授)

第3部会: 人為的災害(原発)

部会長

川崎興太(福島大学教授)

第4部会: 復興政策

部会長

姥浦道生(東北大学教授)

特別TF: 新型コロナ対応

WG長

廣井悠(東京大学教授)

2024年能登半島地震タスクフォース(2024.1設置)

TF長 : 森本章倫(本学会 会長)
TF筆頭幹事長: 加藤孝明
メンバー : 特別委員会委員+随時追加

被害調査ワーキング

復興「いっしょに考える」ボード

連携

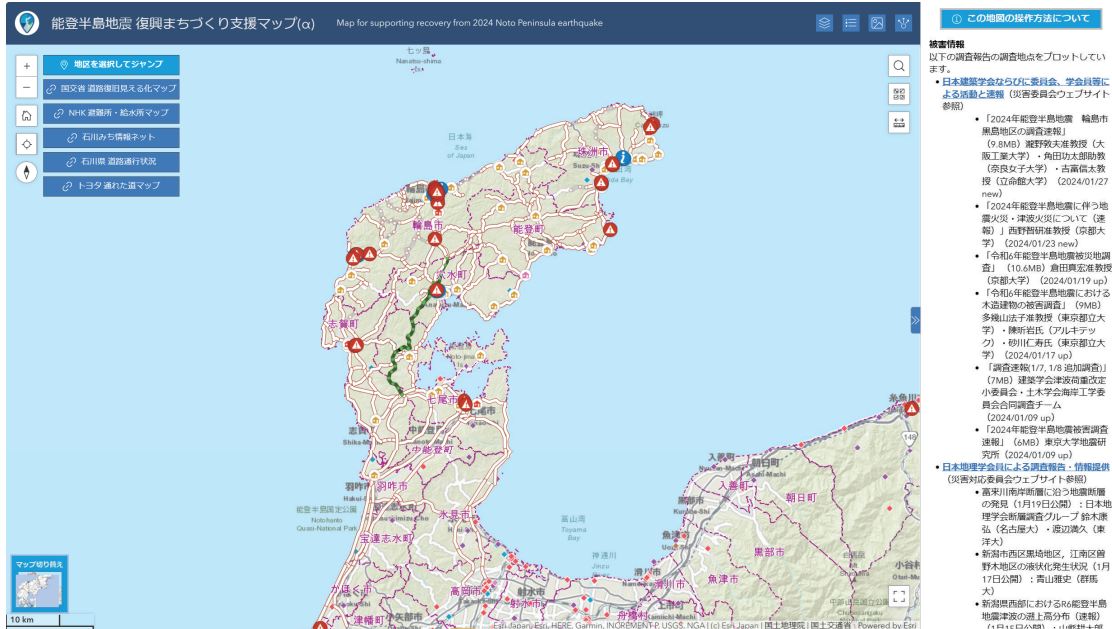
中部支部

被害調査ワーキング：市古太郎教授（東京都立大）

目的

- 被害調査、被災地の現状の共有
- 復興支援を行う学術グループの支援
- (1)活動情報共有サイト：Facebookグループの設置
- (2)能登半島地震 復興まちづくり支援マップの開設・運用

学会タスクフォースHPIにリンクあり



復興「いっしょに考える」ボード

- 都市計画学会の社会的役割
 - 円滑かつ速やかな、かつ、「適切な」復興の実現に寄与する
 - 復興支援における多分野横断・連携の要へ(なれるかどうか)
 - 復興支援系の専門領域：地域安全学会、災害復興学会、建築学会、災害看護学会、.....
- 都市計画学会の立ち位置
 - 都市計画領域が大切にするスケール・立ち位置
 - 山や川が見える一人の顔が見えるー建築資材の木目も見える
 - (土木、都市計画、建築)
- 都市計画学会・能登半島地震TFの範疇
 - 狭義の都市計画(都市計画制度、政策の範囲)
 - 広義の都市計画(都市の計画)
 - ➡ 総合的な地域づくりを志向する(農村漁村を含む、広域を含む、産業復興も含む)

ミッション：情報共有と復興討論会の開催

- ①学会員が有する知見の集約と創発の場を提供
- ②状況を取引した適時性のあるメッセージを社会へ
 - 提言、提案、問題提起
- ※ 今後も復興のフェーズに応じた討論の場の提供
 - 政策レベル～自治体復興支援～まちづくり・集落支援

「復興討論会」：時代を見据えた復興の論点の見取り図を考える

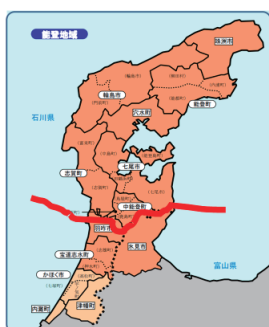
2024年2月24日(土) 13:30~17:30

- 【開会・趣旨説明】13:30~
 - 趣旨説明: 加藤孝明(東京大学)
 - 都市計画学会の対応経緯: 市古太郎(都立大), 荒木笙子(東北大学)
 - 【第1部】議論の基盤をそろえるための被災状況・現状の共有 13:50~14:50(+20)15:10
 - 都市局の対応について: 筒井裕治(国土交通省市街地整備課長)
 - 被災地の現状について: 片桐由希子(金沢工業大学)
 - 被災地の現状について: 寺山一輝(石川高専)
 - 【第2部】学会員からの論点提示: (+20)15:10~16:10
 - 防災・復興の俯瞰的立場から: 加藤孝明(東京大学)、牧紀男(京都大学)
 - 東日本大震災の経験から: 姥浦道生(東北大学)、南正昭(岩手大学)
 - 都市計画家協会から: 原拓也(都市計画家協会副会長, JSURP復興支援TF)
: 神谷秀美(都市計画家協会理事, JSURP復興支援TF)
 - 全体コメント: 川上光彦(金沢大学)
- <休憩>15:40~(+20)16:15~
- 【第3部】参加者による討論(グループディスカッション)16:05~16:50(+20)16:30~17:15
 - 【第4部】全体のまとめ 16:50~17:40(+20)17:10~18:00
 - 参加者からの発表・コメント: 12*4=48
 - まとめ:
 - 【閉会】: 森本章倫(都市計画学会会長)17:40-17:35(+10)~18:10

能登半島地震の復興とは

- 日本社会の復興の経験の蓄積の下での災害
 - 阪神淡路大震災29年, 中越地震20年, 東日本大震災13年, 熊本地震8年
 - ただし, 時代の違いを翻訳して学び直す必要がある。
- 平成の時代すべての被害、復興課題を包含する地震・津波災害
 - - 地震動による建物倒壊(阪神・淡路大震災, 1995)
 - - 延焼火災による災害(阪神・淡路大震災, 1995)
 - - 孤立・避難、人口減少社会での復興(新潟県中越地震, 2004)
 - - 津波被害(東日本大震災, 2011)
- 2度目の復興
 - 2007年能登半島地震の経験
- 時代の進展
 - 人口減, 過疎化(財政難)の進展
 - 働き方改革
 - 団塊世代後期高齢者の時代

災害復興はトレンドを加速させる



	現在	未来25年	過去25年~ 未来25年		過去25年~ 未来25年
	2020年	2020-2045年	1995-2045年	2020年	高齢化率 財政力指数
七尾市	50,300	70.4%	52.5%	七尾市	50,300 38.7% 0.44
輪島市	24,608	61.8%	40.9%	輪島市	24,608 46.2% 0.24
珠州市	12,929	56.3%	33.7%	珠州市	12,929 51.6% 0.22
志賀町	18,630	63.7%	44.0%	志賀町	18,630 44.7% 0.55
中能登町	16,540	74.5%	62.5%	中能登町	16,540 37.2% 0.30
穴水町	7,890	58.2%	38.1%	穴水町	7,890 49.1% 0.25
能登町	15,687	56.5%	34.6%	能登町	15,687 50.4% 0.20
合計	146,584	65.2%	45.4%	合計	146,584

復興の目標とは何か

日本の従来の復興目標

もとの通りに復旧する

- 「第八十七条指定行政機関の長及び指定地方行政機関の長、地方公共団体の長その他の執行機関、指定公共機関及び指定地方公共機関その他法令の規定により災害復旧の実施について責任を有する者は、法令又は防災計画の定めるところにより、災害復旧を実施しなければならない。」(災害対策基本法)

二度と同じ被害を繰り返さない

都市改造の機会: 関東大震災復興

- 「理想的帝都建設の為真に絶好の機会」、生活再建、風景・景観、地域の持続性…

牧教授提示
(京大)

質的な転換, 未来の先取り

共通目標: 地域の持続可能性の回復

- 被災前=持続性がじり貧の状態
 - 何某かの質的転換が必須
- 持続可能性の構成要素
 - 箱と中身ともに復興=人の復興+街(機能と空間)の復興
 - 地域文化の継承と創造
 - 持続性のキーファクターの特定と再生が不可欠

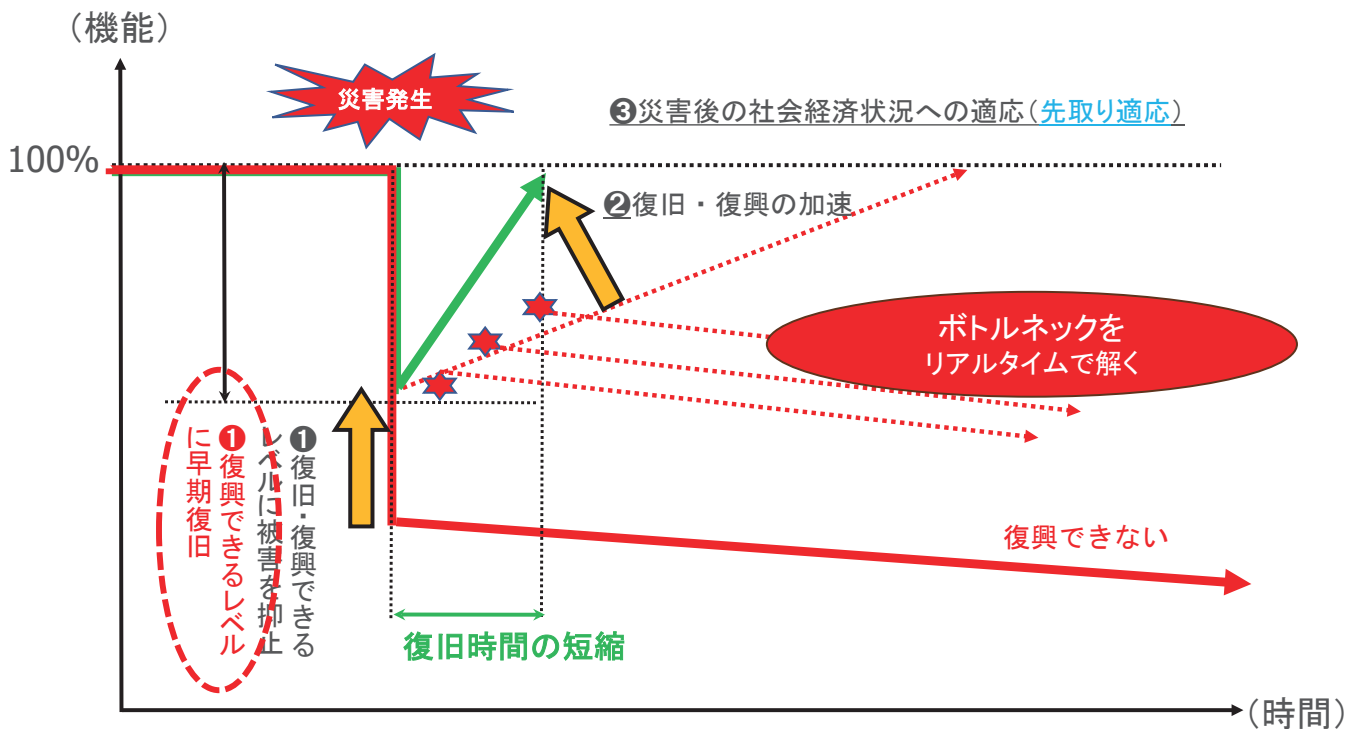
レジリエンスの構造(加藤)から復興を考える

「先取り適応」

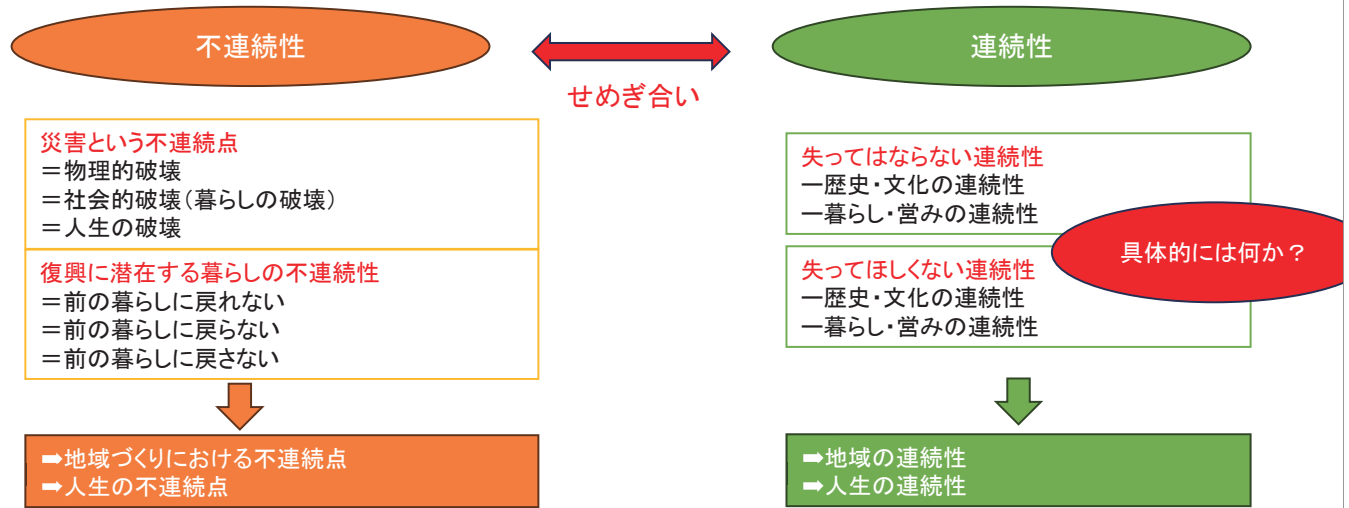
レジリエンスを構成する3つの要素

- ① 復旧・復興できるレベルに被害を抑止
- ② 速やか、かつ、円滑な復旧・復興
- ③ 災害後の社会経済状況への適応(先取り適応)

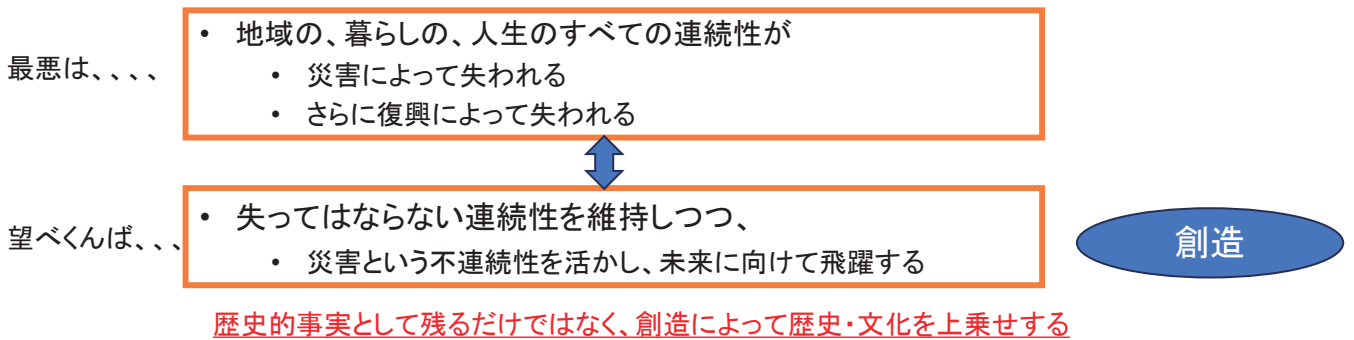
- 防災・減災の上乗せ
- 復興を加速させるための準備
- 復興のボトルネックの事前解消
- 復興の目標像の事前検討



災害・復興とは：不連続性と連続性のせめぎ合い



多様なレベルの災害復興



- 意図せず、大切な何か失われる復興【成り行き型】



- 歴史文化と人生・生活の連続性の維持に配慮しつつ、
- 災害という不連続点を活かして、計画的意図を持って明るい未来を拓く復興【ビジョン型】

ビジョン型であるべき

何を継承して、何を創造するか？
(何を捨てて)、(未来の歴史文化を今創る)

有形

無形

「災害復興の6つの法則」(加藤孝明(東京大学))

Takaaki Kato, Yasmin Bhattacharya, et al The Six Principles of Recovery: A Guideline for Preparing for Future Disaster Recoveries Journal of Disaster Research, Vol.8(7), 737-745, 2013.7

① どこにでも通用する処方箋はない。

- **時代**, 災害特性, 地域特性が違えば, 異なる処方箋が必要

既存の復興政策は常に陳腐化する

② 災害・復興は社会のトレンドを加速させる

- 過疎化している地域では, 過疎化が加速.
- 成長する地域では, 成長が加速.

時代を先取りすることが重要

良いトレンドと悪いトレンドを峻別することが重要

③ 復興は, 従前の問題を深刻化させて噴出させる。

- 今まで解けなかった方法では, 復興課題は解けない

④ 復興で用いられた政策は, 過去に使ったことのあるもの, 少なくとも考えたことがあるもの

コロナ政策の経験

⑤ 成功の必要条件: 復興の過程で被災者, 被災コミュニティの力が引き出されていること

元気=持続性のキーファクターは何か?

⑥ 成功の必要条件: 復興に必要な4つの目のバランス感覚 + α (外部の目)

- 時間軸で近くを見る目と遠くを見る目
- 空間軸で近くを見る目と遠くを見る目

目の前の現象への応急対応ではない

14

今後

• WGの活動を継続,

- 時間軸に伴う多様なスケールでの議論に即応できるよう**状況を先取りして**準備, 体制も変える
 - 国レベル➡自治体レベル➡集落レベル
- 情報共有と議論の共有
 - 多様な専門性, 専門家同士の役割分担と連携の促進
 - 専門家同士の対立を現場に持ち込まないことに留意
- 学び直しの場の提供
 - 過去の復興経験の共有と時代的解釈

• 山積する課題へのリアルタイムでの対応

• まだ解けていない復興課題への対応

- 東日本大震災の教訓
- 教訓その1: 地域の魅力の同定と実現のための総合的計画
- 教訓その2: 土地建物の「所有」から「利用」へ
- 教訓その3: 「街の復興」と「人の復興」のバランス
- 教訓その4: 地域自治・エリアマネジメント
- 教訓その5: 人口減少とのリンケージ

姥浦教授提示
(東北大)

• プロセス上の課題解消・緩和とプロセスのデザイン

- ボトルネックの存在
 - 不在地主の多さ, 二次避難の影響
 - 時間のかかるインフラの復旧
- 多様な立場の人達

• 社会的には必要だが, 現場では議論しにくい論点への対応

- 議論のプラットフォームが必要
 - 例えば, 集落再編等。

2024年2月24日:復興討論会の暫定的なまとめ:**惰性, 慣性からの脱却**

- **復興の目標**:持続性のある地域として再生すること
- **◆時代性を反映したビジョン×戦略**
- **◆総合性**:空間, 時間, 領域(縦割り)
- **政策の, 手法の発明と創造**
- **◆地域の持続性につながる資源の創造**:
 - “文化”:歴史, 景観, 風景,
 - ≡**地域の営みとセットであることが重要**。農林水産業(一次産業)
 - 都市計画事業の力で地域づくりのタネ, 資源を創り得る。
- **◆地域の最後の底力**
- **◆前に進めるエンジン**:官民連携, **外部連携**
- **◆いろいろな意味での「エコシステム(地域経済含め)の構築」**が不可欠
- **◆丁寧な眼差しが不可欠**
 - 多様な被害レベル, 多様なレベルの持続性,
- **次の津波災害への対応**:津波防災地域づくり

- **学会の役割**
 - **◆復興の知恵の創出と即時共有**
 - 復興プロセスにおいて後追いではなく, 先取りすることが必須
 - **◆円滑かつ速やかな, かつ, 「適切な」復興の実現に寄与する**
 - 多分野横断・連携へ

ご清聴ありがとうございました